



ありあけ

佐賀大学農学部
同窓会報
No.22

発行日 2018年7月1日
編集 会報編集委員会

発行 佐賀大学農学部同窓会
住所 佐賀市本庄町1 佐賀大学内

TEL 0952-23-1253 FAX 0952-25-5700
E-mail dousoukai@sadai.jp
ホームページ http://sadai.jp/alumni/nougakudousoukai/

巻頭言



母校と同窓会へ惹きつけるチカラ

佐賀大学農学部同窓会 会長 小池良美
(S56年卒 農・経)

会員の皆様には、ますますご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

先般、5月の通常総会で会長に選任いただきました小池です。川副前会長のもとで副会長2年という浅い経験しかありませんが、今回、会長は農協連支部からという流れで、務めさせていただくことになりました。

同窓会の事業活動について、皆様方のご理解ご協力をたまわり、お会いする機会には、ぜひともご助言等の声かけをいただければ心強い限りです。

同窓会の組織力発揮の旗振り役として

私たちの同窓会は、数多くの会員を有する組織ではありますが、事業活動のあり方については課題も抱え、運営財源はなかなか厳しいものとなっております。ただ、ここぞという時の組織力発揮は自他ともに認めるところであり、近年では農学部創立60周年（平成27年）に際しての様々な取り組み実績が一例として挙げられます。

平成30年度の役員体制は、総勢28名のうち新しい顔ぶれ9名、私を含めた役職異動が4名で、残り半数の方が引き続きという、よい体制を作っていたいております。本部・支部ともに、これまでの活動を停滞させないようアイデアを出し合い、県外の同窓会組織とも連携を密にし、旗振り役の務めを果たしていく所存であります。

大学との意見交換、後輩学生の就職支援にも

大学を取り巻く環境の変化は加速し、少子化の影響にも直面している中、様々な大学改革プランが打ち出されているようです。また、近年の就職事情は学生優位の様相ではありますが「面倒見の良い大学」「地元就職率の向上」は同窓会として後押しできる所です。大学教職員の方々との意見交換や後輩学生たちの就職支援に努めたいと存じます。県内各支部の力添え、特に若い会員の協力がなくとも

いけないものもあります。よろしくお願いいたします。

ぜひ総会への出席とホームページ閲覧を

母校と同窓会に惹きつけるような情報発信力を高めていかなければなりません、結びに2つのお願いです。

1つ目は、母校のキャンパスに、多くの方が足を運んでいただけることが、役員・事務局の励みになります。来年の総会には、同期の親しい仲間と連絡を取りあって、ご出席いただけないでしょうか。

2つ目は、同窓会活動の様子は、会報「ありあけ」のほか、リニューアルしましたホームページでぜひご覧ください。



リニューアルした同窓会ホームページのトップページ



農学部同窓会では、活発な情報発信に努めます

第33回（平成30年度）同窓会総会を開催 ～講演会・アトラクション・懇親会も盛会～

【総会】

農学部同窓会では、平成30年5月19日（土）に農学部大講義室で、第33回総会を開催しました。総会には、来賓として恩師の瀬口昌洋先生、生物環境科学科長北垣浩志先生、農学部事務長山崎欽哉氏、楠葉同窓会理事中尾政幸氏にご参加いただき、また県内各支部を中心に80名を超える同窓生の出席があり、鹿児島県、熊本県からも参加していただきました。



総会の開会に当たり、川副操会長は、大学の研究・教育の環境が大きく変化してきていることに触れ、特に平成31年度から農学部が1学科「生物資源科学科」へ再編されるにあたり、今後、さらに大学と同窓会の連携を密にし、在学生への支援等を強化していくため、会員のご支援とご協力をお願いしたいと挨拶を述べられました。

総会では、溝口善紀氏（S53年卒 農・病）を議長に選出し、①平成29年度の事業報告・決算、②平成30年度の事業計画・予算、③役員を選任について審議をいただき、いずれの議案も賛成多数で承認されました。

【講演会】

総会後は、（公財）鍋島報効会「徴古館」の主任学芸員富田紘次氏に「第10代藩主 鍋島直正公がめざした『佐賀』」と題してご講演をいただきました。

今年は、明治維新150年を記念して「肥前さが幕末維新博覧会」が佐賀県で開催されており、幕末維新における佐賀の偉人・賢人に関心が高まっています。この激動期に、第10代藩主の鍋島直正公は、近代化事業を次々と展開され、名君として語られるところでは。

今回は、直正公の偉業の中で、「農業を担う領民達との関係がどうであったか」という側面に焦点を当て、徴古館に所蔵されている古文書から「直正公に



講師：富田紘次主任学芸員

とっての領民とは」「直正公が医学寮を設置した理由」「コレラ流行時の対応」「直正公が粗食する理由」「民が殿を想う」「直正公が目指した佐賀」「直茂公の教訓21カ条」など19項目にわたって、鍋島直正公について詳しくご講演をいただきました。



「御領中の者は、皆、子の如く思召され候」「民なくては実に国家一日も立ち行き申さざること眼前に候」「上下内外一体に融貫致し、憂は偕に憂ひ、楽は偕に楽み、領内一統分願を得、国家永久の基い相立ち候様に」など、民と共に歩んだ直正公の考え方や、直正公がめざした佐賀の姿を興味深く学ぶことができました。

【アトラクション】

講演会の後は、佐賀大学混声合唱団コーロ・カンフォーラの合唱により、60周年記念事業で作成した農学部の歌「学部歌」と「学生歌」の2曲と、持ち歌である「前へ」を披露していただきました。



経済学部2年の原大貴さん指揮

【懇親会】

会場を新装になった生協の「かささぎホール」に移して、懇親会を行いました。来賓として、有馬進佐賀大学農学部長、鄭紹輝農学部副学長、宮尾正隆友朋会会長、平尾泰博理工学部同窓会副会長様ほか多数の大学関係の方にご参加いただきました。

閉会前に、水田和彦副会長による「巻頭言」の披露と、佐賀大学学生歌「楠の葉の」を参加者全員で肩を組んで大合唱しました。

最後は、懇親会参加者の中で最も若い中尾隆寛さ



ん（H28年卒 農・作物）の力強い万歳三唱でお開きになり、在校生・教職員・卒業生の交流の場としての楽しいイベントにすることができました。

総会の1日は、私たち同窓会の1年の活動方針な

どを決める重要な場であるだけでなく、同窓生をはじめとする関係の方々の絆を深める場でもあります。これまで総会に出席されていない同窓生の皆様も、来年はぜひ総会への出席をよろしくお願いいたします。



水田副会長による巻頭言

田中 俊之（S59年卒 農・経）



肩を組んでの「楠の葉の」の合唱

■ 役員を選任

役員の一部を改選しました。

川副操前会長に代わり小池良美氏が新会長に選出され、平成30年度の役員が次のとおり選任されました。

なお、川副操前会長は全学同窓会の会長に就任されました。

担当役職（出身支部）	氏 名	卒年・学科（専攻）
会 長（農 協 連）	小池 良美	S56・農学（農経）
副会長（教 職 員）	水田 和彦	S51・農土（機械）
副会長（県 庁）	石橋 泰之	S60・農学（病理）
副会長（大 学）	吉賀 豊司	H 2・園芸（応動）
理事長（県 庁）	瀬尾 裕一	S63・農学（育種）
編集長（佐 賀 県）	内海 修一	S49院・農学（農経）
理 事（大 学）	田中 宗浩	H 4・生生（施設）
理 事（大 学）	福田 伸二	H 7・応生（植ウ）
理 事（大 学）	郡山 益実	H 7・生生（浅海）
理 事（大 学）	宮本 英揮	H10・生生（水利）
理 事（大 学）	徳本 家康	H14・生生（水利）
理 事（大 学）	龍田 勝輔	H15・応生（害虫）
理 事（県 庁）	納富 麻子	H 4・応生（遺資）
理 事（県 庁）	辻 保	H 6・生生（基盤）

担当役職（出身支部）	氏 名	卒年・学科（専攻）
理 事（県 庁）	條島真紀子	H 7・応生（植ウ）
理 事（農 協 連）	園田 佳弘	H 9・応生（植病）
理 事（教 職 員）	江口 秀孝	H 2・農化（食管）
理 事（佐賀市役所）	福田 喜隆	S63・農土（土改）
理 事（佐 賀 県）	森田 昭	S52・農学（農経）
理 事（佐 賀 県）	荒木 清史	S54・農化（醗酵）
監 事（教 職 員）	大坪 正幸	S59・農学（農経）
監 事（県 庁）	田中 俊之	S59・農学（農経）
佐賀県庁支部長	溝口 宜彦	S56・農学（作物）
佐賀県教職員支部長	青木 久生	S58・園芸（蔬菜）
佐賀県農協連支部長	福田 徳之	H 1・農学（農経）
農業自営者の会長	大庭 英二	S51・園芸（果樹）
佐賀県支部長	山口 俊治	S49・農土（土改）
熊本県庁支部長	金島 佳典	S56・園芸（果樹）

会費納入のお願い

日頃より、同窓会活動に多大なご理解を賜りまして、厚くお礼申し上げます。

同窓会会報「ありあけ」の発行、総会・懇親会の開催、大学との意見交換会、支部助成活動、在学生への就職支援など、多岐に亘る活動をおこなっています。これらの事業は同窓会費で賄われており、同窓生の皆様には大変ご協力をいただいておりますが、近年は年会費納入率が極めて低く、同窓会運営にも支障を来しています。

出費多端のところ大変恐縮ではございますが、同窓会の趣旨をご理解の上、納入いただきますようお願い申し上げます。

なお、既に納入をして頂いている方につきましては誠に申し訳なくご容赦の程お願い申し上げます。

平成29年度事業報告および収支決算

(H29.4.1～H30.3.31)

■事業報告

次の事業を執行し、同窓会の円滑な運営、支部活動の充実に努めました。

- (1) 大学と同窓会との意見交換会を開催するなど相互に連携した取組を行った。
- (2) 在学生支援として、在学生・教職員・卒業生の交流会を開催した。
- (3) 大学主催の就職ガイダンスの講師として会員を派遣した。
- (4) 会報「ありあけ」20、21号を発行・配布した。
- (5) 農業版MOT講座の取組への支援を行った。
- (6) 農学部及び全学同窓会支部の総会等へ役員が参加するなど連携の強化に取り組んだ。
- (7) 同窓会員名簿のデータ管理、会員への閲覧を行った。

■収支決算

- (1) 一般会計

【収入の部】

単位：円

科 目	29年度決算
前年度繰越金	33,150
会 費	3,850,000
学生（新入生）	2,860,000
一般会員	990,000
雑 収 入	286,005
特別会計戻入	800,000
計	4,969,155

【支出の部】

単位：円

科 目	29年度決算
事 務 費	1,123,476
会 議 費	496,909
事 業 費	679,012
組 織 強 化 費	322,784
全学同窓会負担金	1,430,000
特別会計への繰出金	785,000
新入生入会金	65,000
会費平準化準備金	720,000
予 備 費	0
計	4,837,181

※差引 131,974円は次年度へ繰越

- (2) 特別会計

【収入の部】

単位：円

科 目	29年度決算
前年度繰越金	13,076,526
一 般 分 a	6,646,404
会費平準化準備金 b	6,430,122
入 会 金 c	65,000
会費平準化準備金 d	720,000
雑 収 入 e	1,367
計 (a+b+c+d+e)	13,862,893
一般分 (a+c+e①)	6,711,408
会費平準化準備金 (b+d+e②)	7,151,485

※e=e①+e②

【支出の部】

単位：円

科 目	29年度決算
繰出金（一般会計へ）	800,000

※差引 13,062,893円は次年度へ繰越

平成30年度事業計画および収支予算

(H30.4.1～H31.3.31)

■事業計画

- (1) 会員に対し同窓会をより身近なものとしていくため、支部の体制・活動をより充実するとともに、会報を発行するなど各種情報の提供を行う。
- (2) 更なる組織の強化・活性化を図るために、支部未加入者を対象として既存支部への加入促進や、地域組織との連携を図る。
- (3) 農学部と同窓会との意見交換会を開催するなど、相互に連携した取組を行う。
- (4) 学生に対する就職ガイダンスなどの支援を行うとともに、卒業生との交流促進に取り組む。
- (5) 農業技術経営管理士（農業版MOT）養成の取組に連携して協力支援を行う。

■収支予算

29年度決算と比べて厳しい予算組みとなりましたが、一般会員からの会費収入を高めて、財源確保に努めていかなければなりません。

会員の皆様のご支援をお願いします。

- (1) 一般会計

【収入の部】

単位：円

科 目	30年度予算
前年度繰越金	131,974
会 費	3,560,000
学生（新入生）	3,080,000
一般会員	480,000
雑 収 入	218,026
特別会計戻入	800,000
計	4,710,000

【支出の部】

単位：円

科 目	30年度予算
事 務 費	1,190,000
会 議 費	450,000
事 業 費	800,000
組 織 強 化 費	300,000
全学同窓会負担金	1,540,000
特別会計への繰出金	370,000
学生入会金	70,000
会費平準化準備金	300,000
予 備 費	60,000
計	4,710,000

- (2) 特別会計

【収入の部】

単位：円

科 目	30年度予算
前年度繰越金	13,062,893
一 般 分 a	6,711,408
会費平準化準備金 b	6,351,485
入 会 金 c	70,000
会費平準化準備金 d	300,000
雑 収 入 e	1,107
計 (a+b+c+d+e)	13,434,000
一般分 (a+c+e①)	6,781,500
会費平準化準備金 (b+d+e②)	6,652,500

※e=e①+e②

【支出の部】

単位：円

科 目	30年度予算
繰出金（一般会計へ）	800,000

同窓会長賞の授与

平成30年3月23日、農学部主催による「平成29年度卒業祝賀会」がホテルニューオータニ佐賀で開催され、この中で池本紗輝さん、柿本理沙さん、中林ゆいさんの3名に農学部同窓会長賞が川副操会長から授与されました。また、松田浩輝さんに佐賀大学同窓会長賞が金丸安隆会長から授与されました。



■■ 同窓会長賞 受賞者の手記 ■■



佐賀大学同窓会長賞

応用生物科学科
生物資源制御学講座

松田 浩輝

この度、佐賀大学同窓会長賞という大変名誉ある賞をいただき、誠にありがとうございました。私は卒業研究で「植物における被食防御形質多型の維持機構解明」に取り組み、その成果は4つの学会大会で発表し、日本生態学会大会、日本応用動物昆虫学会大会ではポスター賞をいただきました。

そして、卒業研究とは別に佐賀自然史研究会の方々と連携し、県内に生息する希少生物に関する調査にも携わらせていただきました。主な研究対象は佐賀県に生息する哺乳類のうち唯一天然記念物に指定されているネズミの仲間のヤマネです。ヤマネは県のレッドリストで絶滅危惧Ⅰ類に指定されていますが、県内における分布に関する情報は断片的でした。そこで、分布域解明のため県内各地を調査した結果、ヤマネは多良山系でのみ確認されました。また、調査の過程で八幡岳においてムササビの生息を確認しました。これは県内で生息地が特定された生体の初記録で、九州北西部でも47年ぶりの生息確認

でした。この他、佐世保市におけるオリーブ栽培技術確立のためにオリーブアナアキゾウムシの生態解明に関する研究、嘉瀬川ダム周辺におけるテンの活動状況調査、東与賀ラムサールクラブを始め、一般の方々を対象とした自然観察会のボランティアなど、生物多様性や自然保護関連の多くのイベントに携わることができました。

研究室に配属されてから、卒業研究以外にもこのような活動に参加させていただき、本当に密度の濃い大学生活を送ることができました。これは、指導教員の徳田誠准教授をはじめ、研究室の先輩や同輩、農学部の他の研究室や地域の方々など、多くの皆様のご指導とご協力の賜物であり、加えて、心強い家族の支えがあったからこそ、これだけの経験をさせていただけたのだと感じています。この場をお借りして、お世話になった皆様に心より感謝申し上げます。

平成30年4月からは本大学の農学研究科で、引き続き地域の生物に関する研究を続けております。微力ではありますが、お世話になった皆様に少しでも恩返しができるよう、佐賀・有明地域の生物多様性を解明していく所存です。今後ともご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



農学部同窓会長賞

生命機能科学科
生命化学講座

池本 紗輝

この度は、農学部同窓会長賞という名誉ある賞を頂き、誠にありがとうございました。

私は当研究室で、佐賀大学農学部附属アグリ創生教育研究センターの敷地内に育成しているキクイモの葉、花、塊茎の成分分析を行いました。この度の受賞につきましては、キクイモの研究ではなく、私の学外での環境教育活動です。

団体名「エコっぷ」には「エコなココロの切符」、つまり私たちの活動がより多くの人のエコな心の

きっかけになりたいという思いが込められており、将来を担う子どもたちを対象としたエコで楽しい学びの場を作っております。

大学3年生になる直前、環境活動に取り組む学生が日本中から福岡に集まる合宿型イベントで、「将来の子どもたちに美しい地球を受け継ぐために、今私ができることをやりたい」という思いが強くなり、同志を募り結成しました。正直、メンバー自身も環境、エコに関しての知識があまりなかったので、外部のイベントや地元のごみ処理施設等に足を運んで勉強しながら「どうしたら子どもたちに伝わるだろうか」と考え企画し、気軽に楽しくできる省エネやごみを減らすことを学ぶエコクッキングなどを定期的に開催しました。この活動が素晴らしい賞の受賞に結びつきましたことを大変光栄に思っております。

私は、学外での活動を通して、地域の様々な世代の方々と関わる機会を得ることで、学校で学んだことを生かしたり、視野を広げたり、新しい発見をしたりすることができました。

この2年間は何物にも代え難い豊かなものだったと感じております。これも活動するにあたって私たちの思いに共感し、お力添えいただきました当研究室の渡邊教授や地域の皆さま、他団体の仲間、及び佐賀大学、当研究室の先生方や仲間、そしてこれま

で支えてくれた家族のおかげです。この場をお借りして心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

私は、平成30年4月から博多の方で就職致しました。九州の玄関口であるこの場所で、大学時代に得た知識や人のつながり、抱いた思いを大切にしながら、お世話になりました皆さまに、ひいては社会のために恩返しができるよう日々精励いたします。



農学部同窓会長賞

農学研究科
生物資源科学専攻

柿本理沙

この度は、農学部同窓会長賞を頂きまして、大変嬉しく思います。

私の研究テーマは、母乳中の環境汚染物質を測定する前処理法の開発と乳児の環境汚染物質への曝露評価のための母乳採取法の検討です。本賞では、環境汚染物質による母乳汚染の現状把握と調査法確立に関する研究テーマに取り組み、国際学会で発表した内容がSpecial Awardを受賞したことを評価していただきました。

本研究は、私の所属する研究室の先代の先輩方から引継いだものです。引継ぎ当初の学部3年生の頃、その膨大なデータ量に驚き、自分にできるのかと不安に思ったことを覚えています。

それから早4年。研究生生活を振り返ってみると、日々、実験や学会発表、学会誌投稿に向けて論文化する作業に打ち込み、あっという間に大学院卒業の日を迎えたように思います。佐賀大学大学院での2年間では特に、大学入学以前より、英語が好きであっ

たことから、国際学会や国際誌への論文投稿へ最も力を注ぎました。学会発表も論文執筆も英語で行ったこともあり、途中、苦勞することや予定通りに進まず悩みつまずくことも多々ありました。しかし、毎日学内外の様々な方からアドバイスや励ましをいただき、無事に研究を遂行することができました。

私がこのように伸び伸びと研究に打ち込むことができたのは、佐賀大学農学部の気風や応援してくれる先生方、頼もしい先輩方がいたからだと思います。温かく優しい人に恵まれ沢山の人の支えられた学生生活でした。めげそうなときにも励まし支えてくださった先生方や友人その他のみなさんに感謝します。皆さま本当にありがとうございました。特に、根気強く最後まで熱心にご指導くださった指導教員の上野大介先生には、この場をお借りして深くお礼申し上げます。

私は、平成30年4月より、在学中研究で使用したような分析機器メーカーで海外営業として働き始めました。大学に在籍した6年間で培った化学分析技術や英語力、その他を社会に還元し、これまでお世話になった沢山の方々に恩返しすることができるよう、精進していく所存です。最後になりましたが、この度はこのような名誉ある賞をいただき、大変有難うございました。



農学部同窓会長賞

応用生物科学科
生物資源制御学講座

中林ゆい

この度は、農学部同窓会長賞という大変栄誉ある賞をいただき、誠にありがとうございました。

私は、卒業研究として「アリ随伴性シジミチョウ幼虫の寄生蜂に対する防衛効果」について研究に取り組んできました。多くの生物で、アリに蜜を与えて天敵を排除させる共生関係を持つことが知られています。シジミチョウ科は、多くの種が幼虫期にアリと共生関係を持つチョウのグループです。これまでシジミチョウ科で天敵に対するアリ防衛の効果を調べた研究の多くは、生存にアリが不可欠という特殊な例でした。そこで、本研究では、最も一般的な例で、必ずしもアリが生存に必要なではない随意関係

を持つムラサキシジミ幼虫に着目し、随意的なアリ随伴が幼虫の主要な天敵である寄生蜂に対してどれほど効果があるかを検証しました。

実験室内で、アリに随伴されているムラサキシジミ幼虫を寄生蜂に与えると、寄生蜂はアリからの攻撃でまったく産卵できませんでした。また、野外調査から、アリがあまり随伴していない若齢幼虫の時に最も寄生されていることがわかりました。これらの結果から、シジミチョウにおける随意的なアリ随伴の効果が明らかとなり、この成果が認められ、「第62回日本応用動物昆虫学会大会」にてポスター賞をいただきました。

また、「5th International Entomophagous Insects Conference」では、海外の方々に初めて英語で研究発表を行いました。世界中の研究者の方々との交流は、研究の視野が広がるきっかけにもなり、研究に対するモチベーションをさらに高めてくれました。

卒業研究では思い通りに研究が進まないことも多

く、辛いこともたくさんありましたが、熱心にご指導いただいた指導教員の徳田誠准教授をはじめ、調査や飼育にご協力いただいた研究室の皆様、そしていつも支えてくれた家族のおかげで研究に励むことができました。本当にありがとうございました。

私は現在、京都府立大学の博士前期課程に進学し、

小型蛾類のホソガ科とその寄生蜂の相互作用について研究を進めております。これからも幅広い視点をもって、生物同士がどのように関わり合い、進化してきたのか、多くの発見ができるように日々精進してまいります。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

■■ 高木胖氏へ農学部同窓会長賞を贈呈 ■■

～同窓会の組織整備と地域農業への貢献～

平成30年5月19日、農学部同窓会総会において同窓会活動に多大なご尽力をいただいた高木胖氏（S36年卒 農・育）に川副会長より同窓会長賞の贈呈を行いました。高木氏は、農学科育種学専攻に奉職され、同窓会設立草創期の組織体制整備に多大なご貢献をいただき、退官後も佐賀県支部顧問として、支部活動の活性化にご尽力いただいています。

また、水稻・大豆の品種育成に精力的に取り組まれ、特に黄白色大豆（むらゆたか）の新品種の作出・普及は、本県水田農業の発展に大きく貢献しました。さらに平成13年には「ダイズ種子脂肪酸組成の改良に関する遺伝育種学的研究」で日本育種学会賞を受賞され、その後、高オレイン酸で低リノレン酸含量となる大豆新品種の開発等、高付加価値化に向けた新たな大豆の用途開発など地域ニーズに密着した多くの研究成果を挙げており、本賞はそのご功績を讃えるものです。受賞挨拶では、同窓会設立期に一緒に奔走された方々の名前を挙げ、また研究面でも「多くの卒業生や恩師に支えられ受賞できたことを大変うれしく思う」と、その当時の熱い思いを語っていただきました。



川副会長から賞状と副賞を贈呈

恩師からのメッセージ

33年間過ごした佐賀大学農学部への感謝とお礼

白武義治（S51年卒 農・経）

平成30年3月31日、佐賀大学農学部を定年退職いたしました。目まぐるしく変動した時代の中で、大過なく職責を全うできたことは、皆様方のご指導ご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

私は昭和60年4月農学部教務職員として赴任し、その後助手5年、助教授8年、教授17年と33年間を一貫して本農学部で過ごしました。この間、150名以上の学部生、27名の修士や10名の博士の院生の指導に関わることができました。

何よりも嬉しいのは、多方面に就職されて、社会のために大活躍をされていることです。印象深いのは院生との共同研究を、海外や国内の学会で積極的に研究報告したことです。その結果、主指導教員として担当しました学生10名が博士学位を受けました。彼らはスリランカ、インドネシア、バングラデシュ、中国、韓国、マダガスカルの留学生です。お陰様で、大学教員に7名、農林省研究員に1名、民間企業に2名が就業し、現在は大学長、教授・助教授、研究所所長、京都大学経済学研究科の教員に就任しています。これらの留学生達が本学部集い、定年を迎えた年まで13年間連続で、国際会議・研究報告会を開催できたことは、学位取得後の研究にも有意義でした。

また、日本流通学会、日本協同組合学会、食農資源経済学会（4回）を本学部で開催でき討論、研究

発表ができましたことは幸いでした。さらに平成27年には国際農業農村協同組合学会を本学で創設でき、本部を設置できたことは忘れられないことです。現在、全国各地や海外の就業先からメールや電話連絡が届きます。その情報は嬉しいことばかりではないのですが、有難いと思います。

私は、引き続き長崎ウエスレヤン大学経済政策学科の教授、地域・産学連携推進センター長を兼務することになりましたが、在職中に賜りました教訓を大切に心新たに職務に専心努力して参りますので今後とも変わらぬご支援ご交誼を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、佐賀大学農学部のますますのご発展と同窓生皆様のご健勝を心より祈念して、ご挨拶とさせていただきます。



職場では

佐賀農業高校の取組

～「農業分野のグローバル・リーダーの育成プログラム」(SGH)に取り組む～

佐賀農業高等学校では、平成28年度より5年間、全国の農業高校で唯一の文部科学省からの研究指定を受け、「農業分野のグローバル・リーダーの育成プログラム」を実施している。このプログラムは、主体的に行動する力、英語力やコミュニケーション力、論理的思考力等のグローバルな素養を身につけさせるため、他者と協働して課題を発見し解決する探求型学習を1年次より取り入れている。

佐賀大学農学部をはじめ、行政機関、農業関連の機関と連携し、グローバルな農業問題についての講演を聴いたり、地域や外国でフィールドワークを行ったりしている。1年次には地元で、2年次には外国(平成28～29年はベトナムのメコンデルタ)でフィールドワークを行い、農家を視察したり、外国の大学生等との意見交換をしたりした。

3年次には、双方の類似点や相違点より課題を発見し、解決策を模索し考察している。

また、これらの取組を英語で外国人へプレゼン

テーションしたり、意見交換したりして、「農業問題に取り組む農業分野のグローバル人材の育成」を目指している。全国で開催された各種発表会や高校生サミットなどにも出場し、成果を発表している。

これらの取組を機に海外への興味を持つ生徒が増えた。平成28年：3名、平成29年：5名が留学、平成28年：15名、平成29年：27名が海外研修へ参加している。また、課題研究の質と生徒のモチベーションを高める上で大変効果的であった。特に、英語に接する機会が増え、英語への苦手意識を持つ生徒が減少したことは本事業ならではの利点だと考える。

何よりも、生徒が自信を持ち、自己肯定感が高まったこと、1年次から課題研究を導入することで、早い段階で生徒同士の協働する意識が芽生え、レポートや論文をまとめる力やプレゼン力が向上したことは大きな成果だと考える。今後も、グローバル・リーダーを育成できるよう尽力したい。

石橋 誠 (H1年卒 農・果)



カントー大学農業農村開発学部生との意見交換



ソクチャン省のエビ・コメ農家での聞き取り調査



カカオ農園視察

会員のた場

「落語と子供たち」

え～、しばらくの間お付き合いを願っておきます。「お母さん、チャーハンまだ！チャーハンまだ！チャーハンまだ！」「焼きめし！（やかましい）」

今、子供たちの間で一番人気のある小噺である。縁あって、高木瀬小学校落語クラブのゲストティーチャーとして活動し始め今年で3年目になる。

落語クラブでは4年から6年まで約20人が取り組んでいる。指導するのは、私を含め佐大落研出身の3人。1回45分で年10回程度の活動しかないが、子供たちの中には昼休みには自主練習にも取り組む子がいるほど熱心だ。

初めに、落語とは？という話をする。落語は、江戸時代から伝わる話芸で、終わりに落ちを付けて笑いを招く「おとし噺」のことを言うてなこと。



高木瀬小学校落語クラブの練習風景

クラブの最初頃は、子供たちの多くは、キョトン

としている。何なの落語って?「笑点」が落語かな?くらい。

しかし、あらかじめ用意した、「小噺」を口調から身振り手振りを交えて、一対一で教える毎に、格段の上達をする子が出てくる。一人ひとり上達の具合が違うのが面白い。教える時間が少ないため、なかなか個々人の上達具合に適した指導ができないのが口惜しい。

校区の文化祭などで出番をこなす中で、だんだん自信を深めていく。子供たちに笑顔が増え、「小噺」

の技を持つことで、クラスに溶け込め、一目置かれる存在になる子も出てくる。自分の居場所が見つかるのだろう。

出番が終わった後の晴れやかな子供たちの表情、自信を深めていく過程を見ていると、その新鮮さに驚かされる。本当に子供たちからエネルギーをもらっている。

こりゃ、長〜う続けんぞ! 流れから「落ち」ないようにせんと。お後がよろしいようで。

山口 俊治 (S49年卒 農・改)

支部だより

佐賀県教職員支部

佐賀県教職員支部総会の開催

12月2日マリターレ創世において、平成29年度佐賀県教職員支部総会を開催しました。青木支部長の挨拶では、これから進行する生徒減少期において学校を取り巻く環境は、さらに厳しさを増していくこと。このため各農業系高校では、地域における学校の果たすべき役割を再確認し魅力ある農業教育を展開していくこと。そして、農業系高校間の連携をさらに強化していくことの重要性和、会員の皆様には、それぞれの学校において牽引役として尽力してもらいたい、という話がありました。その後は平成28年度分の会計報告・監査報告を終え、支部長より会費納入について提案がありました。

近年同窓会の会費納入の状況が思わしくなく、事業運営を圧迫しているということです。そこで、まず教職員支部として、農業系高校から会費納入の促進を行うことで意思の疎通をはかりました。その後

の懇親会は和気あいあいとした雰囲気の中で楽しい交流の場となりました。来賓として農学部同窓会の川副操会長、全学同窓会の金丸安隆会長(元唐津南高校校長)と水田和彦様(元神埼清明高校校長)にはご多用の中ご出席をいただき、ありがとうございます。

江島 博文 (S62年卒 農・管)



佐賀県支部

佐賀県支部総会の開催

佐賀県支部では、第11回の農学部同窓会佐賀県支部総会を5月11日、佐賀市の「グランデはがくれ」で開催しました。

会員28名が参加し、平成30年度の事業計画・収支予算等を協議し、また役員改選で新支部長に山口俊治氏(S49年卒農・改)、幹事長に森田昭氏(S52年卒農・経)を選出し、支部活動の活性化に向けて会員の連携をより一層深めていくことなどを確認しました。平成30年度の新入会員として4名を迎え、総勢108名になりました。

懇親会では、卒業年次別に一人ひとり近況報告をお願いし、趣味や家庭菜園づくり、地域の役職などで元気で活躍されている話で、盛り上がりました。また、農学部同窓会長賞授与者として高木胖氏(S36年卒・育種)を支部から推薦し、本部同窓会総会

において表彰されました。

支部では、全会員の近況を整理し、会員に配布しています。体調を崩されている方も少しずつ増えてきていることを危惧していますが、また支部総会で元気な姿で再会できることを祈っています。

内海 修一 (S49院修了 農経)



佐賀県庁支部

先輩を送る会の開催

平成29年度末で佐賀県庁を退職される先輩方をお招きして、3月14日にグランデはがくれ（佐賀市天神2丁目）において「先輩を送る会」を開催しました。

平成29年度末に退職された先輩は、安西隆先輩（東部農林事務所）、大塚紀夫先輩（農業試験研究センター）、緒方和裕先輩（茶業試験場）の3名でした。

このうち出席いただいたのは安西先輩で、会員は51名と、近年で最多の出席がありました。

高田俊行監事の先導による先輩の入場に始まり、南里敏彦副支部長の開会、溝口宜彦支部長の挨拶、記念品と花束の贈呈、先輩を囲んでの記念撮影のあと、先輩から楽しい思い出にあふれた挨拶をいただき、吉浦純孝さんの乾杯で歓談に移りました。会員の皆さんは先輩と昔話に花を咲かせ、爆笑し、大いに盛り上がりました。その後、全員で旧学生歌「楠の葉の」を合唱し、最後は恒例となっている出席した会員全員で作ったアーチの中を先輩が通って退場

していかれました。去っていかれるその姿は名残惜しいものがありました。

「先輩を送る会」が滞りなく終了し、幹事一同ホッとしているところです。

次年度のこの会には、今回残念ながら参加できなかった会員も含めてさらに多くの出席をお願いしたいと思います。

松尾 定（S61年卒 農・熱）



お知らせ

① 同窓会報の印刷発行の変更

同窓会報の印刷発行につきましては、郵便料金の大幅値上げ等を勘案し、全学において今年度から従来の年2回の会報発行の方法を見直し、7月は従来通り印刷配布（2,800部）とし、1月については冊子スタイルで編集作成し同窓会ホームページに掲載し閲覧いただく方法に変更することとなりました。諸事情ご賢察のうえ、ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。

② 農学部同窓会名簿の更新について

農学部同窓会では、名簿の更新・整理に取り組んでいます。住所変更等がありましたら農学部同窓会事務局までご連絡いただければ幸いです。連絡先 E-mail: dousoukai@sadai.jp

編集後記

農学部同窓会員の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。農学部同窓会報「ありあけ第22号」をお届けいたします。現在、佐賀県では「肥前さが幕末維新博覧会」が開催されており、今年の同窓会総会では、鍋島報効会「徴古館」主任学芸員の富田絃次さんに「第10代藩主鍋島直正公がめざした『佐賀』」と題し、特に農業の人材育成など農業・農村政策に焦点を当てた貴重な講演をいただきました。農学部でも

IT農業、藻類研究、コスメ研究など、多くのプロジェクト研究が進んでおり、農業におけるイノベーションが期待されています。今年度から編集長を担当することとなりましたが、今後、会員の皆様の活躍の様子や農学部の技術革新の動きなどを幅広くお届けしていくこととしていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

編集担当：内海 修一（S49年院修了 農経）

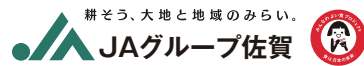
協賛広告

この度の同窓会報発刊に際しまして、皆様より協賛広告をお寄せいただき誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げますとともに、協賛各社の今後のご発展をお祈り申し上げます。

体をつくる「食」 家族をつなぐ「食」 みんなをつなぐ「食」

JAグループ佐賀は、安全・安心な県産農畜産物の提供を通じてみなさまの豊かな暮らしを支えています。

「食」と「農」を基軸とした協同組合として地域に根差した活動に取り組んでまいります。



JAグループ

伊藤ハム

創業九十周年
伊藤ハム

伝統を誇る贈り物

伝承

松本家 御愛用

厳選国産豚肉

伝承 特選ロースハム
伝承 特選ももハム

伊藤ハムウエスト株式会社

本社事務所 〒841-0202 佐賀県三養基郡基山町長野 970-1
TEL : 0942 (92) 3111 (代表)

ホテルニューオータニ佐賀

Beer Terrace

ビアテラス

2018 9/22 (土) まで営業中

7月~9月 18:00~22:00 (21:30L.O.)

1名さま ¥4,000 コース(税金共) 料理5品+フリードリンク90分

7月 menu

- ◎枝豆
- ◎小海老とタコのスパイシー春雨
- ◎焼ナス・トマトと生ハムのシーザー風
- ◎若鶏の油淋鶏とフライドポテト
- ◎イカと県産キャベツの

味噌ベツバー炒め ※¥5,000・¥6,000コースもご用意しております

前日までの要予約 ※各コース2名さまより承ります

8月 9月 menu

- ◎枝豆
- ◎イカとナスのピリ辛マリネ
- ◎棒々鶏風バスタサダ
- ◎チキン南蛮とフライドポテト
- ◎豚バラ軟骨のトロトロ煮込み

単品メニューも充実

■ご予約・お問い合わせ TEL. (0952)25-9002

豊富なメニューで楽しいひとときを
天空の星空と夜景で乾杯！
うれしい特典も、いろいろ！



The New Otani

ホテルニューオータニ佐賀

〒840-0047 佐賀市与賀町1-2 TEL. (0952)23-1111 (代) www.newotani-saga.co.jp



Grain & Pet Care Communication

株式会社 森光商店

〒841-8611 佐賀県鳥栖市藤木町字若桜9-7

PHONE.0942-85-1125(代) FAX.0942-83-8868

ホームページ <http://www.morimitsu.co.jp>